

The background features a light gray gradient with decorative elements. At the top and bottom, there are stylized leaf branches with small white dots and starburst effects. A dark silhouette of a bird is flying in the upper left quadrant.

平成31年度

入学試験問題

# 講評と対策

---

四天王寺中学校

# 国語

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

一 「生物学を学ぶ意味」  
本川達雄(「何のために『学ぶ』のか」  
ちくまプリマー新書)

50点

私たちが「学ぶ」ことの大切さについて、筆者の考えを読み取る。

二 「猫の足あと」  
今江祥智(小学館)

42点

主人公保の、新学期に転校生を迎えたその日の心情を読み取る。

三 「大人になるっておもしろい?」  
清水真砂子(岩波ジュニア新書)

28点

「質問する」ということの意義について、筆者の考えを読み取る。

## 各問題講評

【書き取りについて】(正答率80%)

- 【一】問1d「節操」の正答率が低かった。  
日常使わないような文章語に注意しておいてほしい。

【ことばの問題】(正答率45%)

- 【二】問8「～をさす」という慣用句は多くあるが、文脈にあてはまるものを正しく選択できるようにしてほしい。誤答の例としては「指」「水」「とどめ」「針(漢字としての間違い)」。

【抜き出し問題】

- 問われていることをしっかり理解したうえで解答することが大切である。

【一】

問2(正答率80%)

- (1)抜き出すことばは含まれているものの、余分があったり、「感覚」ということばがない解答も多かった。

問6(正答率30%)

- 一語での抜き出しだが、「新しいもの、古いもの」のように二語以上の解答が多かった。

問8(正答率50%)

- 多かった誤答は「今の日本人～(発想)ができない。」問題をきちんと読めておらず、「後の文中から」という指示に従わず、傍線部よりも前のぶんからの抜き出しも多かった。

【二】

問5(正答率80%)

- 「オオキンプに(と)聞こえた」「サムライみたいな」という解答が目立った。文章中から正確に抜き出すことができていないように感じた。

問10(正答率15%)

- 「先生の話に動ようにして」という部分をふまえて考えていない解答が多かった。多かった誤答は「そこまで保」「どきどきし」。

【三】

問3(正答率10%)

- (2)「どのようにとえていますか」という問いを読み取れていなかった。「『いい質問』とはどうすることですか」という問いだが、「『いい質問』をするとどうなりますか」の答えにあたるものが誤答として目立った。

問4(正答率5%)

- 白紙(空欄)が多かった。傍線部と解答箇所が離れているので気づきにくかったと思われる。多かった誤答は「相手を大切～と知ること」。

【客観問題(選択肢)】

- 比較的正答率は高かった。  
以下、正答率の低かったもの。

【一】

問10(正答率45%)

- 多かった誤答は「ウ」。伊勢神宮の例、古代日本人の例に引きずられたと考えられる。「もの見方」の多様性を述べており、そのための学問の必要性に言及していることに気づくことが大切。

【記述問題】

- 記述問題は、まず傍線部を正確に読み取り、問われていることが何かということを確認してから解答することが大切である。

【一】

問2(2)(正答率40%)

- 本文が読めておらず、問いに対する正しい答えになっていなかった。言いたいことを文章化できていないように感じた。

問3(正答率5%)

- きわめて正答率が低かった。記述問題であるが、抜き出しの解答が多かった。解答は二つのポイントの一つにまとめるのだが、それができていなかった。

問8(2)

- (1)の問いと混同している解答が目立った。どうなっているか、ということ(2)よりさらに具体化を求められていることを読み取ってほしい。

【二】

問2(正答率50%)

- 多かった誤答例…「先生が転校生の話をしたから。」「先生が不思議な話をしていたのに、普通の先生がするような話をしたから。」直前の「なアんだ、それで先生、あんな話をしたんだ。」をふまえていないものが多かった。また、指示語を明示していないものも多かった。字数制限がないので、だらだらと修飾部を書き連ねた文意の通らないもの、助詞の使い方のおかしいものも多く見られた。

問7(正答率60%)

- 「そり屋」が「歌うように言う」を「歌う」と誤解していた。また、自分たちと先生との差を対比的に表現できていないものも多くあった。そもそも「そり屋」の意味がとれておらず、「なかなかの～」という表現も敵対する相手をあなどれないものとする表現であるにもかかわらず、ほめていると誤解しているものもなくなった。

## 次年度入試 アドバイス

今後の大学入試改革を見据え、本校では現代社会の問題に関わる文章を出題する傾向があります。小学生の話し言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることも必要です。普段から小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーボックスなどの新書)、文学的な小説などを意識して読んでください。社会問題にも関心を持つことも大切です。新聞記事を読む習慣もつけてほしいと思います。長編も出題されますが、慣れることで早く読めるようになります。

正しく解くためには小説、評論のジャンルにかかわらず、問題文はもちろん設問の読み取りは大切で、語彙力の有無は大きく作用します。求められていることを限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード、キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけていきます。

# 社会

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1 【地理分野】 中国の地誌	7点	日本と経済的に深い関係を持つ国の例として、中国を取り上げ、受験生の国際的関心がどの程度あるのかを問う。
2 【地理分野】 中部地方の地誌	16点	地域ごとの地形の分布や産業的特徴の基礎知識が身についているかを問う。
3 【歴史分野】 武士の時代(鎌倉～江戸)	34点	I 平安末期から戦国時代にかけての政治・社会・文化・国際関係について II 江戸時代の政治・社会・文化・国際関係について I・IIともに、教科書掲載の図版について、読解し文章で表現する力を問う。
4 【公民分野】 時事問題	18点	2018年に起こった日本と世界の出来事を問う。
5 【公民分野】 通常国会の動きと役割	5点	政治分野について国会の役割(予算の成立や法律の作成)についての理解を問う。

## 各問題講評(具体的に)

- 1 中国の基礎的データを数字で問う問題は、3問ともに正解するか、すべて不正解かに二分されていた。また、首都北京の位置を問うたが、正答率は6割程度。チベット自治区を問う設問では、正答率は5割に達しなかった。
- 2 中部地方の基本的な地形を問うたが、正答率は6割程度、特に木曾山脈を飛騨山脈や赤石山脈と誤答する生徒が非常に多かった。県の位置と県所在地名の正答率は8割、ナショナルトラスト運動は9割以上が正答していた。
- 3 基本的事項については、おおむねよく学習されており、全体としては7割強の正答率であった。歴史的語句について、表記ミスによる減点が目立った。また、[I]問4・問5 [II]問4・問5の誤答率が高く、時代ごとの特徴・歴史的順序の把握について、いま一步の意識的学習が望まれる。
- 4 全問正解の生徒が1割程度いました。時事問題は、日本と世界の関係を重要視してもらいたい。過去の傾向を参考に学習してほしい。
- 5 日本における時事問題で、国会について予算の作成の過程の理解が必要である。法律の成立については、身近な生活に影響していることに気づいてほしい。正答率は8割程度あった。

## 次年度入試 アドバイス

### 1・2【地理分野】

日本と関係の深い国は、教科書にも紹介されており、基本データや主要都市の位置などは、身につけてもらいたい。日本各地の地形、都道府県名、県庁所在地名は、地理の出題の際の基礎です。基礎問題で得点できないと、社会科学全体の点数が上がらないので、漢字で書けるようにしっかりと学習してください。

### 3【歴史分野】

教科書で学習した内容を正しく表記することはすべての基本です。細心の注意をはらって学習してください。教科書の図版や年表にも十分に目を通し、日本をとりまく国際関係まで含めた「時代観」とらえるよう心がけて学習してください。

### 4・5【公民分野】

時事問題は必ず出題されます。ふだんから新聞、インターネットの情報に興味を持って、日本と世界の出来事に関連して理解してください。特に日本と関係の深いアメリカ合衆国などに注目する。「ハラスメント」などの世間を騒がせた時事用語の理解をしてください。

### 【全般】

全体の平均点が70%であり、想定通りであった。記述問題は、歴史分野の出題であり、事前に対策を行う生徒が多かったため、内容的にも良い解答が多かったのが印象的です。自分の考えを文章にする練習をしてください。また、時事問題では、新聞やTVのニュース番組などをこまめにチェックし、少し難しい用語などは自分で調べて覚える習慣をつけてください。地理・歴史分野では、今年も漢字の誤答や仮名書きにより点数を失う生徒が多くなりました。

# 算数

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

1. 小問集合(①②計算)	14点	四則混合の基本計算が正確にできるか。
2. 文章題(整数)	12点	箱に商品を詰めるとき、条件を満たす箱の数が求められるか。
3. 文章題(場合の数)	21点	さいころを4回投げてできる4桁の数の個数が求められるか。
4. 文章題(規則性)	14点	整数の並べ方の規則性を理解し、条件を満たす位置にある数や数の和を求めることができるか。
5. 平面図形 (外周を移動する円の軌跡)	14点	凹凸のある平面図形の外周を1周する円の中心の軌跡の長さや円が通過する部分の面積を求めることができるか。
6. 推理(帽子の色)	12点	文中から状況を読み取り、帽子の色を推理することができるか。
7. 立体(影の形と面積)	12点	①電球によってできる影の長さや位置を理解して、影の図を描くことができるか。②電球が移動するときの影の移動を理解し、影の通過する部分の面積を求めることができるか。
8. 速さ・時間・距離(ダイヤグラム)	21点	ダイヤグラムを描いて、電車の速さ、すれ違う位置と時間を計算し、さらに停電が起こった時刻を推測することができるか。

## 各問題講評

正答率(概算)

1. ①90%②85% 2. ①90%②80% 3. ①70%②50%③15%  
4. ①40%②50% 5. ①20%②10% 6. ①70%②40%  
7. ①8%②25% 8. ①ア40%イ20%②ウエ30%オ20%③カ10%キ15%

### 【講評】

- 基本の計算である。いずれもよくできていた。
- 整数の基本問題。いずれもよくできていた。
- ①1、2、3、4、5、6から異なる4つの数を選んで並べる。よくできていた。  
②全部書き並べてもよいし、千の位・百の位・十の位・一の位にそれぞれ5か6を入れて、5555と6666を除いてもよい。除くのを忘れたらしく16個という解答が多く、正答率がやや低かった。落ち着いて数えよう。  
③例えば、1を2つと、2、3を1つずつでできる数は何個あるか数え、次に1、2、3、4、5、6から2つ使う数字と1つ使う2種類の数字の選び方が何通りあるか数えよう。
- 規則性の基本問題である。  
①5周目の整数の個数は81から120までの40個である。規則性をつかもう。  
②0の位置から左に5、下に4の位置にあるのは①で出てきた5周目の数である。5周目の数のうち大きい方から10番目の数となる。110という誤答が多く残念だった。
- 全体を考えると図を描くのがたいへんなので縦・横・斜めの対称の軸を引いて、8分の1周だけ考えるとよい。正答率は非常に低かった。特にへこんでいるところでの動き方に注意しよう。
- 文中の条件と「わかりません」という答えから帽子の色を推理する。  
①Cには自分の帽子の色がわからないことから、Cには黒と赤か黒と青の帽子が見えていることがわかる。この答えでBに自分の帽子の色がわかったことからBにはAがかぶった赤か青が見えており、Bの帽子は黒とわかる。よくできていた。  
②誰も自分の帽子の色がわからなかったことから赤または青が1つと黒が4つ見えている人が5人と、黒が5つ見えている人が1人いることがわかる。この答えを聞いた瞬間5人は自分の帽子が黒とわかる。
- 電球の高さと立体の高さの比が2:1だから、電球の付け根から影の先までの距離と建物の付け根から影の先までの距離の比も2:1である。  
①比を考えた図がきちんと描けているのに、影の線が方眼に対して斜めになっている部分を塗り忘れていた人が多かった。  
②電球を画面上から下に動かすと影は画面下から上に動く。①の

- 図に、電球をBの位置に置いたときにできる影を描き加えよう。
- ダイヤグラムを描いて、電車の動きを考える問題。①②は平易で、また①②③は独立して答えられるので失点は少ないと予想していたが、白紙が目立った。  
①何時間何分でどれだけの距離を移動したか考えよう。Pは3回目到着、Qは5回目に出発である。正しく読もう。  
②ダイヤグラムを描けば易しい。  
③電車が走っているときに停電すれば停電していた時間だけ遅れるが、駅に停まるときに停電すると停電後の駅での本来の停車時間の分だけ遅れは少なくて済む。ダイヤグラムを見て、5分差がどこでできるかを考えよう。

## 次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本であるから、早く正確にできるように練習しておこう。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおきたい。

合格点を取るために、計算問題は、式をながめて特徴をつかんでから、落ち着いて計算し全問正解しよう。

また、小問や、大問の①②は基礎的な問題が多いので、日頃から数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておこう。

例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができない。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるようふだんから思考力・試行力を養っておきたい。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養っておこう。

立体については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものだ。必要な断面や展開図も描けるようにしておこう。

繰り返すが、本年度入試の大問5、7、8のように自分で図を描いて考える問題の練習をしておこう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、決して難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)を練習する必要はない。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切である。

# 理科

## 問題内容

## 配点

## 出題の意図

- 1 身近な自然現象  
:気象、環境、遺伝

40点

身近には、物理・化学・生物・地学と明確に分けられない様々な自然現象がある。科学を総合的に捉えて考える、生物と地学の混合問題で、知識に加えて文章や表を的確に読み取り思考する力を問うた。

- 2 I: 電流の流れ方  
II: ばねの力と浮力

20点

I: スイッチをつなぎ替える直流回路での複雑な現象において、情報を的確に整理・判断する力を問うた。  
II: ばねにつけた物体を液体中に沈める実験を題材に、測定値の意味を正しく把握し、現象を分析する力を問うた。

- 3 物質の変化と重さの  
関係

20点

身近な物質の性質に関する知識を問うた。また、物質の変化と重さの関係について、実験データをもとに考察する力を試した。

## 各問題講評

- 理科に関する現象を、分野にこだわらず、総合した見方で考えることができるかを問う内容とした。40点満点で平均25点ぐらいであった。(3)(5)のような基本的な問いや入試問題で頻出の問いは、高い正答率であったが、(1)(2)のような、文章や表から情報を読み取り、それに基づいて、その場で考えて解く形式の問いの正答率は低かった。パターン化して覚えるのではなく、原理からよく理解して、その原理を適切に使えるようになるような学習が求められる。
- 20点満点で平均は10点ぐらいであった。内容は、直流回路のスイッチ切り換え問題と浮力測定問題であったが、満点に近い受験生と全く出ていない受験生の両極端に分かれてしまった。(2)(3)では、スイッチのつなぎ方と流れる電流との関係が、(6)(7)ではグラフの縦軸・横軸の値が物理現象としてどのような状況を示しているのかが理解できていない受験生が多く、正答率を下げた。全般的に、与えられた条件を数式化して扱う学習はできているが、「イメージ豊かに物理現象を捉える力」「実験の測定値を物理現象と関連づけて理解する力」を一層培う学習が求められる。
- 20点満点で平均は13点ぐらいであった。物質の性質などの知識はしっかり学習できていると感じられた。一方、ある実験操作を行う理由を問う(3)の解答文には、その操作によって物質にどのような変化が起こるのかということまで考えられていない不十分な表現が目立った。グラフを描く(6)は、グラフの傾きが何を表しているのかまで考えられずに、単に点を結んだだけの誤答が多かった。

今年度は大問が3つで、1題目は生物分野と地学分野の混合問題、2題目が物理分野、3題目が化学分野からの出題であった。1題目と3題目の正答率はほぼ想定通りの60%を超える結果であったが、2題目の正答率が50%ほどに留まってしまったため、理科の平均正答率は60%をやや下回る結果となってしまった。物理分野の得点率が結果を左右することとなったが、物理分野の正答率が低いのは昨年度と同様である。

特に今年度は、物理分野の得点分布のバラツキが大きかった。理科に関する知識の習得はもちろん大切であるが、それに基づいて、図やグラフをいろいろな角度から分析・考察・理解する学習

が不足していると、全般的に感じられた。

## 次年度入試 アドバイス

次年度以降も分野をまたがる混合問題が出題されると考えられますが、以下の点に注意し、物理・化学・生物・地学の4つの分野をかたよりのないよう勉強し、準備しておきましょう。

- 理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などは正しく理解して使えるようにすること。特に用語は正確な漢字で書けるようにしておくこと。
- 記述問題では、ポイントをおさえた的確な解答が要求される。そのためには、何について問われているのか(理由を問われているのか、結果を問われているのかなど)をしっかり把握する必要がある。理科の用語を用いて、適切で簡潔な解答文をつくるうえでも、主語、目的語あるいは補語は省略しないこと。普段から書くことに慣れて、文章力を身につけておくことが必要である。
- 教科書で扱われている実験については、実験操作の意味や意義をしっかり理解し、学校の授業では積極的に実験に参加すること。
- データ処理に関して、グラフの読み取りや作成に慣れ、ある程度のグラフは描けるようにすること。計算力をつける学習も大切である。
- 生活の中で体験する身近な科学現象などに日頃から関心を持つよう心がけ、なぜそのような現象が起こるのかを自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
- 過去の入試問題を解いて、「問題形式」や「解答方法」などに慣れておくこと。その際には、時間を計って解答し、決められた時間内で問題文をしっかり読み取るトレーニングをしておくこと。